

## 2008年3月5日 KFシステムコントローラパックVer1.13リリース

KFシステムコントローラパックを改定いたしました。今回の改定内容は次の通りです。

1. 並列実行マクロのリリース
2. KFシングルチェッカー、性能一覧、システム更新マクロの改定
3. 上記ファイル更新用マクロおよび作成用マクロの改定
4. 上記改定に伴うKFシステムコントローラの改定
5. ファイル更新マクロおよび自動実行マクロの改定

ユーザーの方は、ダウンロードページよりダウンロードを行ってください。なお、無償公開分に付きましては、追ってアナウンスいたしません。

以下、マクロの使用方法や改定内容について、順を追ってご説明いたします。なお、マクロを実行するには、シートの右肩に表示してあるショートカットを、キーボードから入力してください。

### 1. 並列実行マクロ

これは、並列実行を行うためのマクロです。デュアルコア以上のCPUを搭載したパソコンでのみ、ご利用ください。シングルコアでは、並列実行の効果は得られません。

本マクロは、3つのファイルから構成されています。

1つは、「並列実行010.xls」で、これが並列実行処理の本体となります。ここに並列実行を行うマクロファイルを登録します。登録可能なマクロはそれぞれ1つずつであり、8行目に登録したマクロは現在実行しているエクセル上で、9行目に登録したマクロは新しく開くエクセル上で実行されます。

現時点において登録可能なマクロは、ファイル更新と自動実行で、両者を混在させても構いません。既存システムの更新を行いながら、新たなシステムを作成することができます。バックアップやシャットダウンのチェックを"1"にすることで、エクセル1とエクセル2の処理が共に終了した時点から、それらの処理を開始します。

なお、並列実行マクロに登録するマクロのバックアップやシャットダウンのチェックは、必ず外して("1"以外にして)おいてください。それらのチェックを"1"にしておく、他方のエクセルの終了を待たずに、終了処理を開始してしまいます。

また、まったく同じ処理を2つのエクセルで行わないようにご注意ください。同じファイルを参照するシステムをそれぞれのエクセルで処理したときも、参照確認のメッセージが出て自動実行が中断する場合があります。

2つ目のファイルは、「XLstart並列実行010.xls」で、2つ目のエクセルが開いた時に、自動的に実行されるマクロファイルです。そこでは「並列実行010.xls」の9行目を参照しており、そこに登録されたマクロを実行します。

このファイルの参照先は「並列実行010.xls」である必要があり、事前に参照先をご自身の環境に合わせておかなければなりません。本ファイルを開く際には、セキュリティ警告が出た時点で、キーボードの"Shift"キーを押しながら、「マクロを有効にする」をクリックしてください。

すると、マクロが実行されずにファイルを開くことができます。もしも、「Shift」キーを押さずにファイルを開きますと、マクロが自動実行されてしまいますので、十分にご注意ください。本ファイルを開く必要があるのは、初回起動時だけです。一度参照先を設定してしまえば、それ以降は保存先の変更がない限り、本ファイルを操作することはありません。

ファイルを開きましたら、参照先を確認して、問題がなければ上書き保存した後ファイルを閉じてください。参照先を変更する場合は、「編集」メニューの「リンクの設定」から、「リンク元の変更」を選んでリンク元を変更した後、「閉じる」をクリックしてください。その後、上書き保存をして、ファイルを閉じてください。

3つ目のファイルは、「エクセルRUN.bat」です。ここには、コマンドラインからエクセルを実行して、「XLstart並列実行010.xls」ファイルを開くように記述されています。エクセルの実行ファイルが格納されているフォルダや、「XLstart並列実行010.xls」のフォルダを、ご自身の環境に合わせて変更してください。

本ファイルを開くには、ファイルを右クリックした後、「編集」を選択してください。メモ帳が開いて、ファイルが編集可能になります。あるいは、KFシステムコントローラからも、ファイルを開くことができますが、事前に各ファイルの格納フォルダを、ご自身の環境に合わせて変更しておく必要があります。

編集が終了しましたら、バッチファイル保存用フォルダに保存した後、ファイルを閉じてください。本ファイルの設定も、初回のみです。

なお、バッチファイル保存用フォルダは、並列実行マクロのD5セルに登録されたフォルダで、バックアップやバックアップ後シャットダウン用のバッチファイルも、同じフォルダに格納してください。

以上の準備が全て整った後、並列実行マクロを実行しますと、2つのエクセルによる並列処理が始まります。

例えば、ファイル更新処理を並列実行する場合は、ファイル名の異なるファイル更新マクロを2つ用意し、それぞれの実行確認用チェック(A列8行目以降の値)を、「1」が概ね半々になるように振り分けます。その際、両方で処理が重複しないようにご注意ください。

そして、それらのファイルを「並列実行010.xls」に登録し、マクロを実行すればOKです。これは、自動実行の場合でも同様です。

また、処理の順番には十分にご注意ください。例えば、エクセル1の処理結果をエクセル2の処理が参照する、などということがないようにしてください。

## 2. KFシグナルチェッカー、性能一覧、システム更新マクロの改定

KFシグナルチェッカーと性能一覧については、新たに更新チェックを設けました。KFシグナルチェッカーではE2セル、性能一覧ではE3セルの値を"1"に設定すると、ファイルの更新時に書式の更新しか行わず、処理時間を大幅に短縮できます。

同チェックを"1"以外に設定しますと、マクロ実行時に全ての内容を書き換えます。ファイルの作成時や、誤って表の内容を書き換えてしまった場合など以外は、書式の更新のみで問題はないと思います。

システム更新マクロには大きな変更はありませんが、処理の最後に上書き保存を行うようにしたことと、セルの書式を一部変更いたしました。

## 3. 上記ファイル更新用マクロおよび作成用マクロの改定

KFシグナルチェッカー、一覧表示、システム更新の各現行ファイルを、更新するためのマクロです。これらのマクロの実行方法は、2月22日の解説でご説明した方法と同じです。更新するファイルを登録した上で、マクロを実行してください。

なお、システム更新マクロ更新マクロに付きましては、システム更新マクロVer1.10をVer1.11に更新するためのものです。システム更新マクロがVer1.0xの方は、先にシステム更新マクロ更新マクロVer1.00を実行した後、システム更新マクロ更新マクロVer1.10を実行してください。Ver1.10の使用法は、KFシグナルチェッカーなどの場合と同様です。

また、以上の改定に伴い、システム一覧作成マクロも改定いたしました。システム更新マクロで株価データを参照するようにしたため、新たに株価データファイルを登録する箇所を設けました。それに伴って、登録ファイルの位置が2行下にずれましたが、マクロの使用法は従来と変わりません。

## 4. 上記改定に伴うKFシステムコントローラの改定

KFシステムコントローラへの登録項目を増やしました。新たに、並列実行マクロやエクセルRUNバッチファイルを登録すると共に、システム更新マクロ更新ファイルのバージョンを更新しました。

## 5. ファイル更新マクロおよび自動実行マクロの改定

ファイル更新マクロおよび自動実行マクロでは、処理の終了後にファイルを閉じるようにしていましたが、これを閉じないように変更しました。これは、並列実行マクロからの要請によるものです。ファイルを閉じるようにすると、並列実行マクロでなぜか処理が中断してしまいます。

以上、今回の改定点についてご説明いたしました。ご不明な点等ございましたら、お問い合わせページよりお問い合わせください。また、バグ等が見つかりましたら、ご連絡いただけますと幸いです。